

# クラウドファンディング 医工連携の事業化加速

## 医工研、西武信金と課題解決

### 機器開発資金に自由度

日本医工研究所（東京都文京区、寺尾章社長、03・5615・9700）は、西武信用金庫（同中野区）と組み、今夏にも医工連携のクラウドファンディングに乗り出す。ネットを介して資金を調達し、医療現場の困り事を解決する機器の開発に役立てる。これまで公的資金を活用しモノづくり企業と医療機器メーカーの連携を支援してきた。新たな枠組みを用いて資金の使い道の自由度を高めることで医工連携の事業化を加速する狙いだ。医工連携を専門に扱うクラウドファンディングは国内初。



医工研はこの枠組みの相談を受け、臨床の活用を希望する医師的な意義や実現の可能性を確認した上で対象のニーズや行政などが性を確認した上で対象の西武信金は地域支

新たな医療機器の開発に向け、医工連携を支援する

援を目的に、企業に融資するための機会創出を図る。

医工研は展示会や医師による臨床ニーズ発表会を通じ、モノづくり企業と医療機器メーカーを結び付けて医工連携体制を構築している。だが、「研究は進むが、事業化が進まない」（寺尾社長）という。

その課題の一つが公的資金の自由度。開発が進むと新たな課題が

浮上するが、解決するための体制変更が難しいという。さらに公的資金は試作開発を目的にしたものが多く、量産や市場投入のフェーズに近づくにつれ対象外となつて使いにくくなる。これらの理由から開発が頓挫する可能性がある。そこで、クラウドファンディングで対象の機器開発に賛同する人から、自由に使える資金を募ることにした。

医工研はこれまで地方自治体や産業支援機関、民間企業などから委託を受け、2013年からの5年間で65回の展示会を、14年から48回の臨床ニーズ発表会を開催してきた。